

SERIES リベラルアーツ：自由に生きるための知性とは何か？ 『人間5部作』

## 1. 「人間関係のデモクラシー -“家族”から思考する-」 参考文献一覧

教養教育センター主催企画の中でご紹介した文献や登壇者からのおすすめ本は、以下のサイトからご覧いただけます。

【ブックログ：立命館大学教養教育センター各種企画のおすすめ本】

<https://booklog.jp/users/ritsumeikan-univ>

### ■ 横田 祐美子 立命館大学衣笠総合研究機構助教

講演テーマ「自由と平等のための輪番制」

- ・ 横田祐美子「結婚式のデモクラシー」、『現代思想』第47巻第8号、青土社、2019年6月
- ・ 横田祐美子「私が「男尊女卑・家父長制」を退けた「結婚式」を挙げた理由—結婚式のデモクラシー／脱構築の実践」、『現代ビジネス』、講談社、2019年12月、<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/69042>
- ・ ジャック・デリダ『ならず者たち』 鶴飼哲・高橋哲哉訳、みすず書房、2009年
- ・ 山本圭『現代民主主義—指導者論から熟議、ポピュリズムまで』、中央公論新社（中公新書）、2021年
- ・ 藤田尚志・宮野真生子編『愛・性・家族の哲学』（第1巻『愛—結婚は愛のあかし？』、第2巻『性—自分の身体ってなんだろう？』、第3巻『家族—共に生きる形とは？』）、ナカニシヤ出版、2016年
- ・ エリザベス・ブレイク『最小の結婚—結婚をめぐる法と道徳』久保田裕之監訳・羽生有希・藤間公太・本多真隆・佐藤美和・松田和樹・阪井裕一郎訳、白澤社、2019年

### ■ 平山 亮 大阪市立大学文学部准教授

講演テーマ「家庭における役割と性差のつくられ方」

- ・ 上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』、文春新書、2013年
- ・ 落合恵美子『21世紀家族—家族の戦後体制の見かた・超えかた [第4版]』、有斐閣選書、2019年
- ・ 海妻径子『ゆらぐ親密圏とフェミニズム—グローバル時代のケア・労働・アイデンティティ』、コモンズ、2016年
- ・ 栗田隆子『ぼそぼそ声のフェミニズム』、作品社、2019年
- ・ 佐藤文香監修、一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた—あなたがあなたらしくいられるための29問』、明石書店、2019年
- ・ 澁谷知美『平成オトコ塾—悩める男子のための全6章』、筑摩書房、2009
- ・ SWASH 編『セックスワーク・スタディーズ—当事者視点で考える性と労働』、日本評論社、2018年
- ・ 信田さよ子『共依存—苦しいけれど、離れられない』、朝日文庫、2012年
- ・ 前川直哉『男の絆—明治の学生からボーイズ・ラブまで』、筑摩書房、2011年
- ・ 山根純佳・平山亮『「名もなき家事」の、その先へ—“気づき・思案し・調整する”労働のジェンダー不均衡』、けいそうビブリオフィル、2017年—2020年、<https://keisobiblio.com/author/namonakikaji/>

■ 柳原 恵 立命館大学産業社会学部准教授

モデレーター

- ・ 柳原恵『〈化外〉のフェミニズム——岩手・麗ら舎読書会の〈おなご〉たち』ドメス出版、2018
- ・ 総合女性史研究会編『ジェンダー分析で学ぶ女性史入門』岩波書店、2021
- ・ 天野正子『「つきあい」の戦後史——サークル・ネットワークの拓く地平』吉川弘文館、2005
- ・ トリン・T・ミンハ『女性・ネイティヴ・他者——ポストコロニアリズムとフェミニズム』岩波書店、2011
- ・ 荻野美穂『ジェンダー化される身体』勁草書房、2002
- ・ 中村桃子『女ことばと日本語』岩波書店、2012
- ・ 小原徳志編『石ころに語る母たち——農村婦人の戦争体験』未来社、1981
- ・ 鹿野政直『婦人・女性・おんな——女性史の問い』岩波書店、1989
- ・ もろさわようこ『ドキュメント女の百年4 女のからだ』平凡社、1979
- ・ ジョニー・シーガー『女性の世界地図——女たちの経験・現在地・これから』明石書店、2020
- ・ 溝口明代、佐伯洋子、三木草子編『資料日本ウーマン・リブ史』（全3巻）松香堂書店、1992・1994・1995

以上